

かわむらこどもクリニックNEWS

Volume 17 No 3

188号

平成21年 3月 1日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

常識！？非常識？！

院長

今回は診療場面のエピソードから、常識について考えてみたいと思います。

休日当番の日、初診の患者さんが来ました。2日前に3歳のお姉ちゃんがインフルエンザの確定診断を受け、1歳過ぎの弟さんが熱が出てきたという訴えでした。家族にインフルエンザがいて、潜伏期1～2日後にきょうだいが発熱ということなので、弟さんはインフルエンザの可能性が高いと説明しました。インフルエンザの検査は痛みを伴うので、臨床診断でよいのではと話しました。病気の診断には必ずしも検査が必要ではなく、警察ではないのですが状況証拠から診断をしてもいいと思っています。ところが、どうしても検査をしたいと言うので、「例えばきょうだいが10人いたら10回検査はしないでしょう」などと、例を挙げて説明しました。周囲の状況や症状から診断するのが、医師の役割で、検査が第一なら医師はいらない等とも説明し、このような状況でインフルエンザと診断するのは我々としては、常識と伝えました。親御さんはどうしても検査したいようで、「検査もしないでインフルエンザと診断する医師の常識の根拠はどこにある。私たちの常識ではない。」と、非常に不満げに反論しました。争っても仕方ないと考え、インフルエンザの検査をしました。当然のことながら、インフルエンザの検査は陽性でした。これで我々の常識が証明された訳です。普通なら検査結果で納得するはずなのですが、親御さんは納得しません。そして、陽性の結果を目の前にしながら「検査が陰性だったらどうする」と始めました。確かにタミフルに神経質になっていて、インフルエンザではないのに処方されることを不安に思ったのでしょうか。でも我々からみると、検査が陽性なのに「陰性だったら」というのは、どうも常識的ではありません。他人の常識を否定するのであれば、自分が常識を示すしかないと思います。揚げ句の果てに、「検査の仕方が乱暴だ」、看護師に向かって「こんな医者にはついていけないでしょう」の捨てぜりふ。あきれて、ものが言えませ

んでした。

我々の仕事は、すべて患者さんのためものです。患者さんに負担をかけず、正確に診断し、適切な治療を行うというのが基本です。最近、よく「病気を診ずして、病人を診よ」とかという言葉を耳にします。この意味は病気だけを診るのではなく、患者さんのおかれた立場や環境、そして検査や治療の意味を考えて、病気を持っている

人をケアしながら診るべきというものです。親御さんの自己的な満足より、子どもの辛さを考えてあげることも重要なことであり、まさにこの言葉の目指すものと思います。

最近、いい医者定義が変わってきたのかと思ってしまうことがあります。一部の患者さんですが、「自分と同じ考えをしてくれるのが、いい医者の条件」と思っている人がいます。今はネットで情報が溢れ、孤立化で昔の知恵が伝わらず、少子化で不安が強くなっています。そんな状況で、自分の子どもの病名、検査、治療を、受診前に既に決めてくる親御さんがいます。その判断を受け入れてくれるのがいい医者で、受け入れてくれないのが悪い医者ということになってしまいます。それが例え、医学の常識であっても。そして悪い医者の判断やアドバイスを受け入れることを拒んでしまいます。それが例え、子どもに負担や悪影響を与えるものであっても。医学的に必要があっても無くても、望む検査をしてくれ、欲しい薬を出してくれ、親が付けた診断をしてくれる、そんな医者がいい医者である訳はありません。症状、経過、診察から判断し、最低限必要な検査をし、最低限の薬を処方し、病歴と診察に基づきしっかりした診断をするのが、よい医者の条件です。

同じような常識・非常識の話には、きりがありません。“下痢をしているのに、牛乳を与える”“耳を触っているから、中耳炎”“湿疹は、すべてアトピー”、“熱があるから、抗生物質”など。何とか、ならないでしょうか。幸いかかりつけの多くの親御さんは、もちろん常識を持ち合わせています。大事なことは、専門家に任せるということ。その背景のもっとも重要な要素はコミュニケーションであり、信頼です。そのため当院では「お母さんの不安・心配の解消」を理念に様々な活動をしているのです。当然ながら小児科医は、子どもの病気の専門家です。良くコミュニケーションをとり、そして信頼し、病気に関しては小児科医に任せることが重要だと思います。



3月のお知らせ

- ・栄養育児相談
毎週水曜日 13:30～
栄養士担当 無料
- ・お母さんクラブ
3月26日(木) お別れ会
福沢市民センター 14:00～

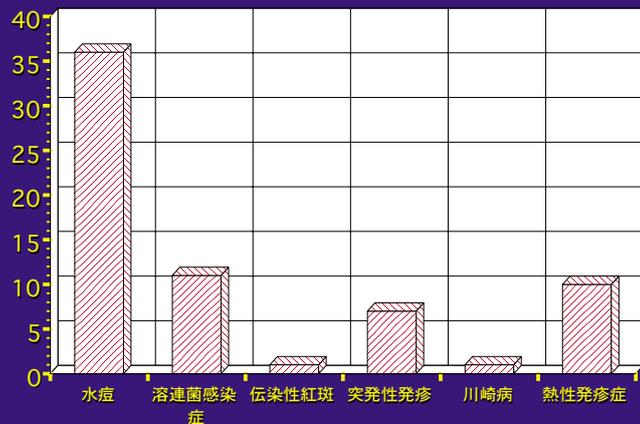
麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』

読者の広場

先月はちょっと少なめですが13通のメールを頂きました。最初は川崎町から1時間以上かけて通ってくる。お母さんクラブの会員でもある納屋さんからのメールです。「先生、おはようございます。とともに昨年は大変お世話になりました。納屋慶次郎の母、幸です。先月はとうとう予防接種も受けなかった私たちもご多分に漏れずインフルエンザになり休日診療のお世話になってしまいました。なんで～祝日なんだよ～と先生のお顔が浮かびました。。私にもあつという間に移り、仕事に穴を空けてしまい、恐るべしです。さて、昨日、貴医院より、クリニックニュースを送っていただきました。ありがとうございました。楽しみにしているので、立ったまま、開封し、読ませていただきました。もう、涙が止まりませんでした。私たちは、昨年未やつと参加できた、クリスマス会で先生やスタッフの方、また佐藤さんの貴重な歌や体験を聞く機会を与えられ、本当に涙あり、笑いあり、素敵なお土産を持って帰路につきました。確かに、先生は淡々と悲しみをこらえてお話されていましたが、こんなに大変なことが裏にあったのですね。。私は8年で5回の流産の末、不妊治療も経てやつとわが子(慶次郎)を胸に抱くことができましたし、つい昨年も2回も流産しています。もう40代なんで2子目は諦めています。そんな体験の中でできた不妊の友人たちといつも話題になるのが、世の子供についての事件事故です。だったら産むな～!!作るな～!!と騒いで盛り上がり、養子をまじめに考えている友人までいます。子供っていったい何が、親ってなんだ?子育てって、..私は長年の夢だった子育てに終われる日々の中で、さぞや、仕事は休んで、子供とたくさん抱して過ごそう。と思い描いておりました。それが、いざ、1才過ぎてしまうと、平日は仙台の実家が主人に子供を預け、仕事に出かけ、週末は旅館の手伝いをし、ほぼ毎日仙台や仙南を車で移動する日々。お惣菜を買っている自分があります。それでも、慶次郎の寝顔を見て、だつこ～と駆け寄り小さい体を抱きしめる時が、私にとって言葉では言えない幸福に満たされた気持ちで埋め尽くされるのです。きっと、先生のところへ運ばれてきた子供たちも、天国へ行く前に、何らかの形で、意味のある経験を親にさせるために生まれてきたのだと思います。それはつらく悲しい経験かもしれませんが、絶対に子供の存在は親にとって代用の利かない学びの存在だと思っております。どうしても子供が欲しくてできなくて、それもかなったいまだからこそ感じる私の感想です。長くなり申し訳ございません。先生、スタッフの皆さんも日々たくさんのお子さんや親御さん相手のお仕事でお疲れかと存じますが、どうぞ、お体ご自愛くださいませ。いつか、機会があれば、どうぞ、うちの温泉も入りにいらしてください。ご自身のプライバシーに関わることにも触れての心温まるメール、ありがとうございました。いかにクリニックのためとはいえプライバシーに触れることは勇気がいったことと思います。すべての出来事には、意味があるはず。その意味に気付いて子育てされていれば、大丈夫です。忙しい中大変ですが、頑張ってください。近いうちにお邪魔したいと思っています。続いては青葉区の中森さんからのメールです。「(略)...それと遅まきながら【クリニックニュース】の1月号を読ませて頂きました。子ども達の周りには、哀しい現実が増えているのです。三つ目の件には事情は違えど、飛羽の事が重なりました。『何故?』と先生は思われるかもしれませんが...川村先生が開業された年の10月に飛羽は産まれました。5ヶ月が、半年位の頃からお世話になり早15年になろうとしています。普段 飛羽は何も言いませんが、心身共に【本当】に辛く不安な時『俺も...かわむら先生行こうかなあ...』と口にします...この間の来院時がそうでした。受験受験と、学校、塾、家でさえ...悲鳴をあげた飛羽の心身が行き着いた先は...川村先生でした。待合室での婦長さん達との会話、診察室での川村先生との何気ないやりとり...全てに癒され元気になって帰宅しました。.....あの可哀想な赤ちゃんの、お母さんになれなかった彼女も...何時からか...何処からか、川村先生の事をご存知だったのでしょうか...そして家族にも、友人にも助けられない彼女が助けを求めた最後の場所が...川村先生だったのでしょうか...ですから先生、未だ未だお元気でクリニックに居て下さらないと困ります、☆川村先生☆じゃないと駄目なんです!...なので、先生もお疲れな時やお辛い時には休んで下さい。医者の不養生と言いますが、私から見ると先生は色々な事がお出来になるので、時々頑張り過ぎていらつしやる様に思えますので.....器用過ぎるのも大変なのです(^.^;)。長くなってしまい申し訳ありませんm(_ _)mでは、この辺で失礼致します。」「川村先生じゃないと駄目なんです」、ほんとううれしい言葉です。最近体調を心配するメールや言葉が多くなっているような気がします。大丈夫です。体調をしっかり管理して、これからも子ども達、お母さん達のために頑張っていきます。ありがとうございました。



2月の感染症の集計



水痘は36人と1ヶ月当たりになると今迄の最高ぐらいの流行です。ひとつの幼稚園が、全滅という状況です。溶連菌感染症も増加気味です。グラフに示していませんが、インフルエンザは流行中で2月も98人で1月と同数です。あちこちでB型の大流行がありますが、周囲ではそれほど多くありません。嘔吐下痢症もかなり目立って、インフルエンザとの区別が難しいこともあります。

Hib ワクチンに関するお知らせ

12月からHibワクチンの予約を受け付けていますが、輸入量と比べて需要が多く、全国的にワクチンが足りなくなってきました。

現在も予約を受け付けていますが、接種時期が未定です。

皆様には大変ご迷惑をおかけしていますが、よろしく御願いたします。

編集後記

新しいソフトを使ってから、新聞作りに四苦八苦しています。読みやすさを考えながら、しかし字数も多く。もう少ししたら、キレイな新聞になることを期待してください。

インフルエンザB型が、あちこちで大流行です。幸い、近隣での大きな流行はありません。うがい、手洗いの励行。マスクを着用して、予防に努めましょう。



K's clinic

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『小学校入学前にも麻しん風しん混合ワクチンを』
Ⅲ期 (中学1年生相当)、Ⅳ期 (高校3年生相当) も忘れずに!